



あいさつする星野市長



清掃作業をする奉仕員

早期分譲めざして

所野地内宅地造成工事進む

市では、過疎化対策の一環として所野地内の市有地を宅地造成していますが、現在、開発許可の手続きも終わり、工事は順調に進んでいます。

宅地造成を行っている場所は、所野保育所東隣の市有地二・九へ上の写真造成中の分譲地

クタール。地番は、所野五四一番九および六八九番三地内です。分譲区画数は五十七区画で、一区画の面積は一五八平方メートル(四七・七九坪)から二六〇平方メートル(七八・六五坪)あります。分譲地内の道路幅員は六メートルから六・五メートルで、水道は市の上水道を整備します。分

譲地内には、一、九〇八平方メートルの公園一か所と九、五四三平方メートルの緑地が造られ、生活環境は非常に恵まれています。

分譲価格や分譲の条件、申し込み資格、申し込み方法、申し込み期間などの詳細は、決定しだい広報でお知らせする予定です。

『ゴミは必ず持ち帰ろう』と

『グリーン日光』をキャンペーン

夏の観光シーズンが一段落した、八月二十六日、心ない行楽客が捨てていったゴミを一扫しようと、『グリーン日光キャンペーン』が大々的に行われました。

最近の観光地は、大自然のふところにも所かまわずビンやカン、紙パック、石油化学製のゴミ類が際

限なく捨てられています。市と日光市観光施設管理公社では、常時清掃作業を行っていますが、場所が広範囲だけに、人員的にもなかなか行き届きません。

そこで、ボーイスカウト、婦人会、青年会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、青年団、山岳連盟の人たち二百五十人に協力していただき、奥日光戦場ヶ原周辺の清掃を実施しました。

二百五十人の奉仕員は一つ一つゴミを手で拾い、この日集められたゴミは一〇トにもなりました。

かけがえのない自然を『ゴミ公害』から守るためにも、自分たちが出したゴミは必ず自分たちで処理したいものです。

表紙のごとば



憾満が涸と 並び地蔵

もうひとつの史跡探勝路として「憾満が涸く寂光滝コース」(全行程約8キロ、所要時間約三時間)がある。三十二カ所の史跡をめぐるものだが、その中に「憾満が涸と並地蔵」がある。現在では、「含満が涸と化地蔵」といった方がわかりが良いかも知れない。

日光市文化財の名勝として、昭和四十四年十一月十四日、第二十二号に指定されている。

日光高山植物園の一角が、大谷川の清流に接しているところ、日光八景のひとつに「含満驟雨」としてとりあげられている景勝の地である。

男体山から噴出した溶岩流が、急流に洗い清められて、独特の岩肌を見せ、その岩面を洗う清流のたたずまいが、何とも美しい。

以前はここに、承応年中(一六五〇年ごろ)上野本覚院の開基、晃海僧正の草創にか